



環境対応10G長距離対応MC収納BOX

2026.6.1(4.1 版)

DNHD2E-FAN

取扱説明書

ご使用の前に必ずお読み下さい。

製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。

安全にご使用いただくために(使用上の一般的注意事項)

指定用途以外には使わないで下さい！

本装置は、10G長距離対応MC(DN6830E)を1台もしくは、小型メディアコンバータ(DN*8**シリーズ)を最大2台まで実装し、電源供給を行うための収納シャーシです。それ以外の用途ではお使いにならないで下さい。また仕様の項目を超えない範囲でお使い下さい。

分解しないで下さい！

取付けてあるカバー類は取り外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

製品は大事に扱って下さい！

誤って落としたり、ぶつけたりしますと製品の性能を低下させますので十分にご注意下さい。

異常が起きたら直ちに使用中止！

使用上、煙・臭い・発火などの異常に気がついた場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい！

本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

電波障害自主規制について！

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本製品のご使用にあたって！

本製品は、人命に関わる場合(医療、航空、原子力、軍事等)や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへの使用または機器組み込みでの使用を意図した設計および製造は行っておりません。

従いまして、これらのシステムへの使用や機器に組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的、間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任におきまして、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用する場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなどご注意願います。

大電株式会社



警告

- ・指定の電圧以外で使用しないで下さい。
指定電圧以外で使用すると火災や感電、故障の原因となります。
- ・AC電源プラグはACコンセントに確実に差し込んで下さい。
電源プラグの刃に金属などが触れると火災や感電、故障の原因となります。
- ・DC電源接続はブレーカをOFFにしてから行って下さい。
電源の短絡事故や火災、感電を招く恐れがあります。
- ・DC電源の接続は相応の訓練を受けた人が行って下さい。
電源の短絡事故や火災、感電を招く恐れがあります。
- ・アース線を必ず接続して下さい。
アースを接続しないと感電の原因となります。
- ・水につけたり、水をかけたりしないで下さい。
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・静電気注意！
本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。静電気による故障・誤動作を防ぐため、製品に触れる前には除電を行って下さい。



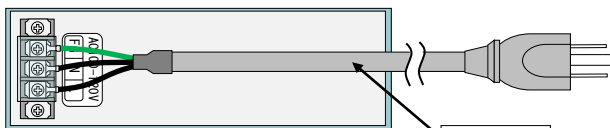
注意

- ・電源プラグを抜くときは、電源プラグを持って抜いて下さい。
電源コードを引っ張るとコードの損傷が発生し火災や感電の原因となることがあります。
- ・濡れた手で製品に触れないで下さい。
故障や感電の原因となることがあります。
- ・アース線の接続及び取外しをする場合は、AC電源は電源プラグをコンセントから抜き、DC電源は電源コネクタを取り外して下さい。
電源を接続したままアース線の接続や取外しをすると感電や故障の原因となることがあります。
- ・本装置をストーブなどの熱器具のそばに置かないで下さい。
ケーブルの被覆が溶けて火災や感電の原因となることがあります。
- ・ファンが回転しない状態では使用しないで下さい。
内部の温度が上がり故障の原因となることがあります。
- ・本装置を直射日光の当たる所や温度の高い所で使用しないで下さい。
内部の温度が上がり火災や故障の原因となることがあります。
- ・放熱スリットや隙間に針金や金属物などの異物を入れないで下さい。
内部に触れ感電やけが、故障の原因となることがあります。
- ・放熱スリットを塞がないで下さい。
スリットを塞ぐと内部に熱がこもって故障の原因となります。
- ・本装置をほこりの多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。
火災や故障の原因となることがあります。
- ・本装置を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。
落下などにより、けがや故障の原因となることがあります。

1. 装置各部の説明／付属品

本 体

DNHD2E-FAN-ACの場合



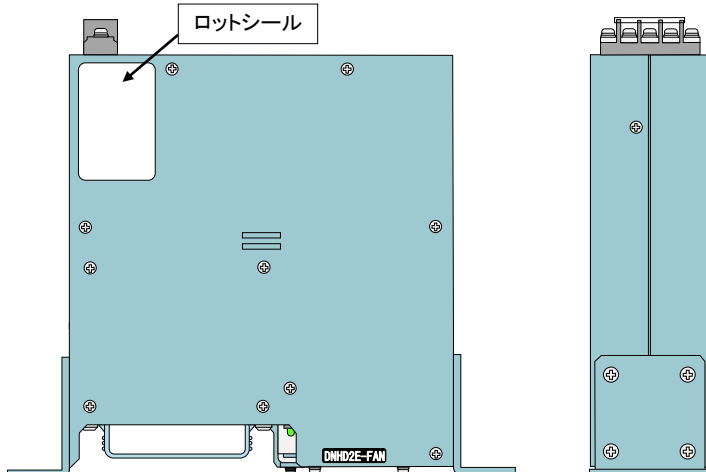
ACコード

DNHD2E-FAN-DCの場合

電源入力端子台



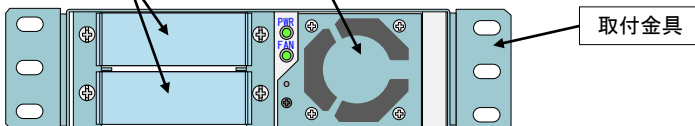
ロットシール



ブラインド

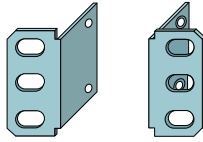
ファンモジュール

取付金具



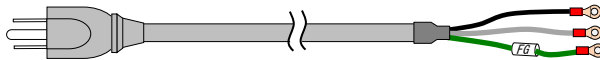
付 属 品

(固定板).....本体を19インチラックや盤面に固定する際に使用します。(2個)

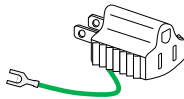


(固定板取付けネジ).....本体に固定板を取付けるためのネジです。
[M3×5mm 4本]

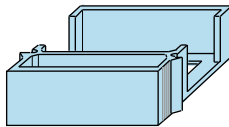
(ACコード).....AC版には電源プラグ付きコードが取り付けられています。
AC125V定格品です。AC200Vなどで使用する場合には使用電圧
に適合したケーブルを別途ご用意下さい。



(変換アダプタ).....接地極なしコンセントに接続する際に使用します。(AC版のみ)



(ブラインド)・・・本機にはブラインド2個が取付けられています。
メディアコンバータを実装する際には取外しますが、メディアコンバータ
を取外した際に必要となりますので大切に保管して下さい。



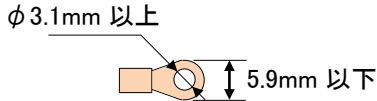
オ プ シ ョ ン 販 売 品

ファンモジュール:ファンモジュールが故障した場合にご購入下さい。
(品名:DNHD×EFANMD)

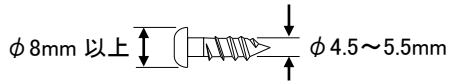
別 売 品

下記部材については、添付していませんので別にご準備ください。

- ・電源ケーブル: AC 版で 125V を超えるものや DC 電源を使用する場合には、AWG20～AWG16 ($0.5\text{mm}^2 \sim 1.25\text{mm}^2$) 相当の電線に圧着端子を取り付けて本体端子台部に取付けて下さい。(適合する電線サイズは、使用する圧着端子の仕様に従って下さい。)
本機の端子台に適合する圧着端子は下図を参照して下さい。



- ・ラック固定用ねじ: 本装置を19インチラックに固定する場合には、M5サイズのネジを使用して下さい。
- ・盤面固定用ねじ: 本装置を盤面にねじで固定する場合には、呼び径 4.5～5.5 サイズ相当のねじを2本使用して下さい。



2. 本体の設置

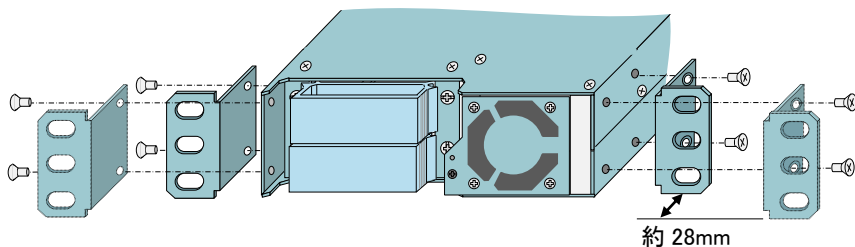
本装置は 19 インチラックへの取付けもしくは盤面への固定が可能です。

【19 インチラック固定の場合】

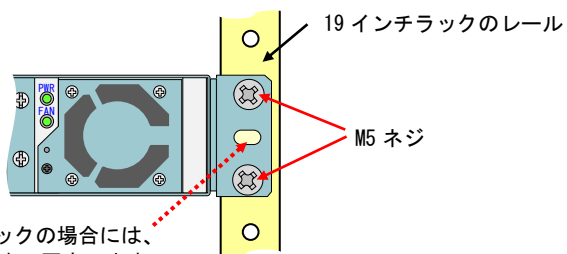
① 付属の皿ネジを使用して下図の向きに取付金具を取付けて下さい。

※ラックには片持ちでの固定となりますので、取付金具の取付けは左右のどちらか一方のみでも構いません

※取付金具は前後に約 28mm オフセットして取り付けることができます。ラックの前面スペースに合わせて調整して下さい。



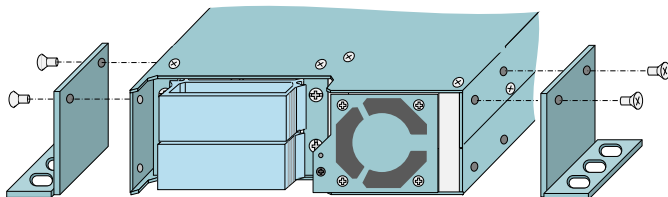
② 下図に示す穴に M5 のネジ (添付なし) を使用し、19 インチラックのレールの片側に取り付けて下さい。



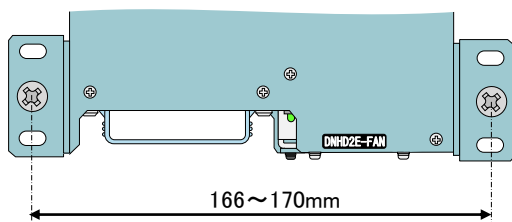
* JIS 規格のラックの場合には、
中段のネジ穴 1 本で固定します。

【盤面に固定する場合】

① 付属の皿ネジを使用して下図の向きに取付金具を取付けて下さい。



② 堅牢な壁面等に下図寸法でネジ穴を加工し、M5相当のネジで固定して下さい。
(ネジ2本が必要となります)

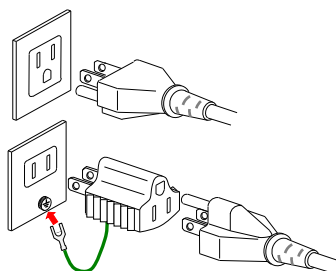


3. 電源の接続

手順①: アース線の接続

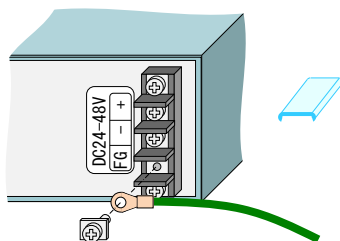
【AC100V電源の場合】

本機のFG接地は、ACプラグの接地極に接続されていますので接地極付きコンセントに接続する場合はアース線接続作業は必要ありません。接地極なしのコンセントを使用する場合は、変換プラグの口出し線を接地端子に接続して下さい。



【AC200VやDC電源の場合】

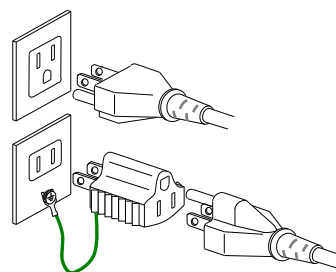
アース線に圧着端子を取付けて、本体背面の端子台カバーを外し「FG端子」に接続して下さい。
(推奨締付トルク 0.5N・m)



手順②: 電源の配線

【AC100V電源の場合】

本機の電源端子は、ACプラグに接続されています。接地極付きコンセントに接続して下さい。
(接地極なしのコンセントを使用する場合は、変換プラグを接続してからコンセントに接続して下さい。)



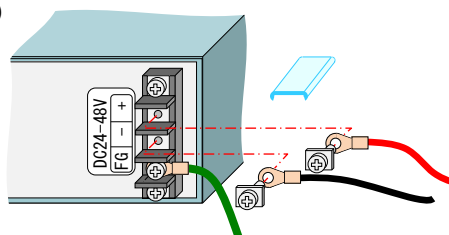
【AC200VやDC電源の場合】

電源ラインの回路ブレーカを遮断し電気が流れない状態にして下さい。
※装置の異常等により過電流が入力された際に出力側の保護を行うためのヒューズを内蔵しています。ヒューズが確実に溶断できるよう電源は7A以上の供給能力があるものにして下さい。

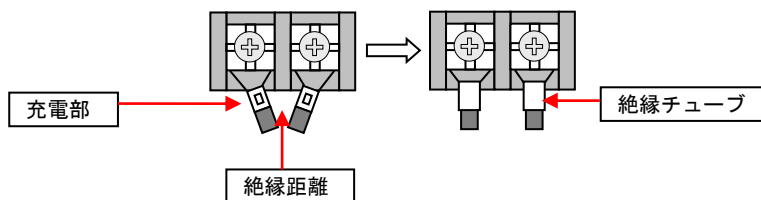
電源線に圧着端子を取付けて、本体背面の端子台に接続して下さい。(推奨締付トルク 0.5N・m)

※DC電源の場合は、プラス極とマイナス極を間違わないように注意して下さい。

接続後は端子台カバーを取付けて下さい。



※裸圧着端子を使用する場合は、充電部が露出しないように絶縁チューブ等により必要な絶縁距離を取って下さい。
※感電、短絡等により誤動作する可能性があります。

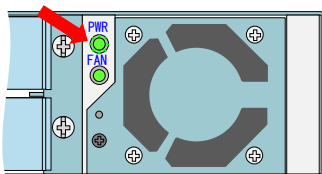


手順③: 電源接続の確認

電源のブレーカーをONにして、本体の電源表示LED「PWR」が緑色に点灯することを確認して下さい。

※電源スイッチをONにする前に、供給電圧が仕様範囲内であるか、極性が間違っていないかを確認することをお勧めします。

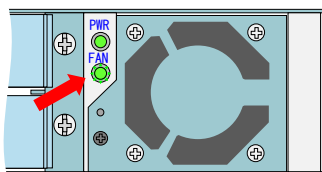
注) 仕様電圧範囲を超える電圧を印加すると故障する可能性があります。



手順④: ファン回転状態の確認

本体に電源が投入されるとファンが回転します。

本体のファン回転状態表示LED「FAN」が緑色に点灯することを確認して下さい。



ファンが故障した場合には、ファン回転状態表示LEDが消灯もしくは点滅します。

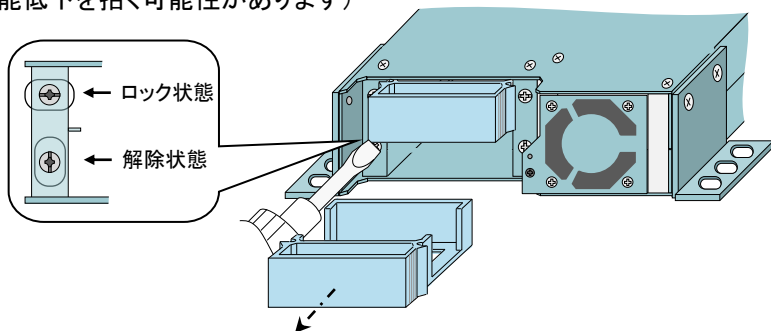
ファンが故障した状態で使用すると、本装置及び装着しているメディアコンバータが高温になり、故障や性能劣化の原因となりますので、速やかにファンモジュールを交換して下さい。

4. メディアコンバータの取付け

手順①: ブラインドの取外し

メディアコンバータを実装するスロット部の両端にあるロックネジをドライバーで90度回転させ解除状態にしてブラインドを取外して下さい。

取り外したブラインドは大切に保管し、メディアコンバータを実装しないスロットには必ずブラインドを装着して下さい。(ファンによる冷却効果が低減し本機及びメディアコンバータの機能低下を招く可能性があります)

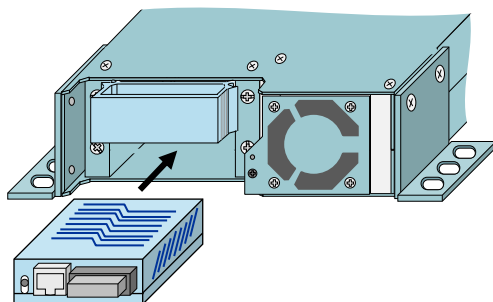


手順②: メディアコンバータの取付け

ブラインドを取り外したスロット部にメディアコンバータを奥まで挿入して下さい。

本機の電源が投入されている場合には、メディアコンバータの電源表示LEDが点灯することを確認して下さい。(メディアコンバータの電源表示LEDについては、メディアコンバータの取扱説明書を参照下さい)

メディアコンバータを奥まで差し込んだら、両端のロックネジをドライバーで90度回転させメディアコンバータをロックして下さい。



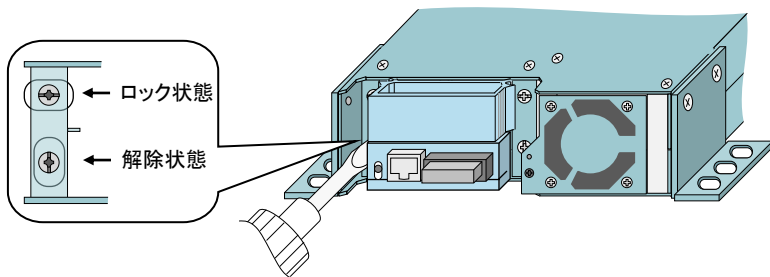
5. メディアコンバータの取外し

手順①: 配線の取外し

メディアコンバータに配線しているUTPケーブルや光ケーブル等の配線コネクタ類を取外して下さい。

手順②: ロックの開放

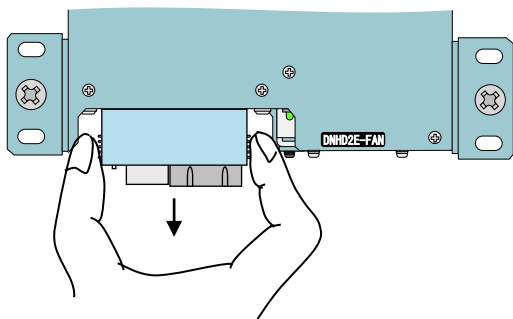
メディアコンバータの両端にあるロックネジをドライバーで90度回転させロック解除状態にして下さい。



手順③: メディアコンバータの取外し

メディアコンバータの側面を指でつまんでゆっくりと引抜いて下さい。

※ロックネジをきちんと解除していない状態で無理に引抜くと、メディアコンバータのケースを破損したり、本機のロックネジ部等を変形させる恐れがありますのでご注意下さい。



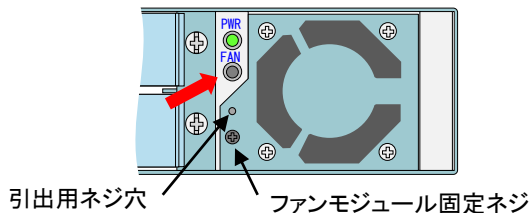
手順④: ブラインドの取付け

メディアコンバータを取外した箇所にはブラインドを装着し、両側のロックネジをきちんとロック状態にして下さい。

6. ファンモジュールの交換

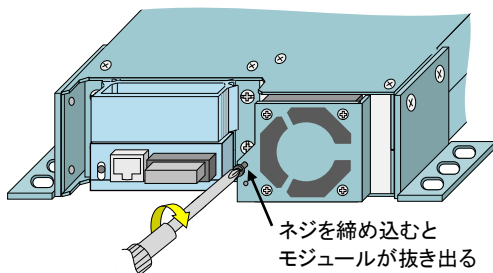
手順①: 固定ネジの取外し

本体のファンが故障した場合、表示LED「FAN」が消灯または点滅となります。
固定ネジ(M2.5 黒色)をプラスドライバーで緩めネジを取り外して下さい。



手順②: ファンモジュールの取外し

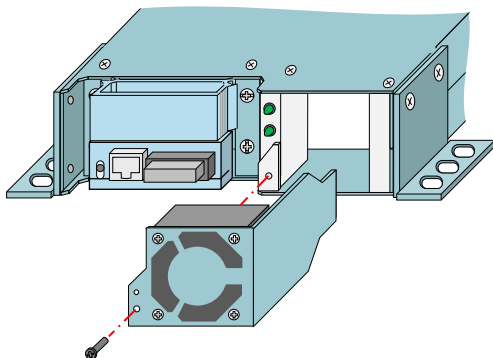
取外したネジを引出用ネジ穴にネジ込むことでファンモジュールを5mm程度抜き出してから、パネル部を持ってファンモジュールを引抜いて下さい。



手順③: ファンモジュールの取付け

新しいファンモジュールをゆっくりと奥に突きあたるまで挿入し、ネジで固定して下さい。

ファンモジュール取付け後、LEDが点灯することを確認して下さい。



7. こんな時は

故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確かめて下さい。

電源 LED「PWR」が点灯しない

確認①: AC 電源プラグはコンセントにきちんと根元まで接続されていますか？

確認②: 電源のブレーカはONになっていますか？

確認③: 端子台に電源コードが確実に接続されていますか？

確認④: DC 版の場合、電源の極性は間違っていますか？

逆極性の保護回路を内蔵していますが、逆極性で長時間通電すると性能低下を招く恐れがあります。速やかに電源をOFFにして正しく接続し直して下さい。

確認⑤: 供給電圧は仕様範囲内ですか？

AC 版の電圧許容範囲は AC90V～AC264V です。

DC 版の電圧許容範囲は DC19.2V～DC57.6V です。

入力電圧が高すぎた場合、保護回路を内蔵しておりませんので故障の危険があります。ご使用を控えて点検・修理に出して下さい。

負荷装置（メディアコンバータ）の電源が入らない

確認①: 本機の電源表示 LED は点灯していますか？

確認②: メディアコンバータはきちんと奥まで実装されロックされていますか？

ファン状態表示 LED「FAN」が点灯しない

確認①: 本機の電源表示LEDは点灯していますか？

確認②: ファンモジュールはきちんと奥まで実装されていますか？

